

第45回 「少年の主張富山県大会」 発表者

<p>いがわ りみ</p> <p>井川 璃海</p>	<p>滑川市立滑川中学校 3</p> <p>私の知らない世界</p>	<p>発表順</p>	
<p>概要</p>	<p>私の母は片方の耳が聞こえない。そのことは自分が小さい頃から知っていた。しかし、母の世界は自分の知っている世界とは全く違った。世の中には様々な障がいをもった人がいる。今まで母のために当たり前にしてきたように、これからは誰にでもそっと手を差し伸べ世界を知りたいと思う。そしてたくさんの世界がつながって一つになればいいと思う。</p>		
<p>おおにし ひな</p> <p>大西 ひな</p>	<p>射水市立新湊南部中学校 3</p> <p>いつ死んでもいいように</p>	<p>発表順</p>	
<p>概要</p>	<p>「いつ死んでもいいように生きるとなあ。」という祖父の言葉と修学旅行の事前学習から、いつも通りの日常が幸せであることや何気ない言葉の掛け合いをする相手がいることは当たり前ではないことに気付いた。戦争を伝える写真には、今の人と変わらない普通の顔が写っていた。戦争は遠い昔の出来事ではない。いつ何が起こるか分からない現代だからこそ、嫌なことがあっても、小さな幸せに気づき、感謝しながら生きていきたい。</p>		
<p>くとせ ゆうや</p> <p>久戸瀬 友哉</p>	<p>高岡市立高陵中学校 2</p> <p>障がい者と向き合うために</p>	<p>発表順</p>	
<p>概要</p>	<p>僕は幼少期に自閉症スペクトラムの傾向があると診断を受けた。自身のもつ特性への偏見によって、幼稚園や小学校でとてもつらい思いをした。障がいがあるからと入園を拒否されたり、障がいを理由に希望していない通級での指導を強制されたり、不当に座席の移動を制限されたりした。その経験から、障がいや特性だけを見て人に接するのではなくその人自身に寄り添って接することが大切だと感じた。そして自分もそんな人になりたい。</p>		
<p>せきはら さき</p> <p>関原 沙樹</p>	<p>高岡市立高陵中学校 1</p> <p>前進～嫌がらせに負けない どうする？私～</p>	<p>発表順</p>	
<p>概要</p>	<p>小学5年生のときに、私はそろばん教室や学校で嫌がらせを受けていた。そろばん教室をサボったり、学校に行きたくないと親に言ったりしていた。そんな時、私よりもっとひどい嫌がらせを受けていた友達の言葉に出会った。彼女の言葉がきっかけで私は嫌がらせから立ち直って前に進むことができた。私はどうすればよいか。それを考えながら、自分ができることをしたいと思う。</p>		
<p>つまがり きいろ</p> <p>津曲 希尋</p>	<p>砺波市立庄川中学校 3</p> <p>恥じずに自分の道を歩む</p>	<p>発表順</p>	
<p>概要</p>	<p>調理に関わる仕事がしたい。そして、自分の作った料理で、誰かに喜んでもらいたい。祖母の手伝いを通して見つけた、私の将来の夢。それは、5歳のころからずっと変わりません。けれど、中学生になったころから、自分の夢を人に伝えることに対して、「恥ずかしい」と思うようになりました。そんな私を変えたのは、祖母が遺してくれた言葉でした。自分の夢を信じる気持ちの大切さを、みなさんに訴えます。</p>		

<p>なか きさら</p> <p>仲 紀沙良</p>	<p>氷見市立西の杜学園 9(3)</p> <p>「変」は悪い言葉じゃない</p>	<p>発表順</p>	
<p>概要</p>	<p>みんなと合わせられないことは「変」なことなのではないでしょうか。「変」な自分にならないように自分を押しさえ込む必要はあるのでしょうか。私は、他の人と違うということには価値があり、自分の個性に前向きになるのは大切なことだと思います。同調圧力の中でつらい気持ちになっている人たちに、自分の個性をポジティブに捉え、自分らしさを生かし、前向きに過ごしていくことを提案したいです。</p>		
<p>ふたがみ ゆら</p> <p>二上 悠来</p>	<p>高岡市立芳野中学校 3</p> <p>地域の人の温かさ</p>	<p>発表順</p>	
<p>概要</p>	<p>普段、何気なく交わっているあいさつですが、それは自分と地域の方をつなげてくれるとても大切なものだと気付きました。これからは、地域の方とのかかわりを意識するだけでなく、あいさつをきっかけにして、地域の方以外の方々とも会話を楽しめるようにしていきたいです。</p>		
<p>ふるの あいと</p> <p>古野 愛翔</p>	<p>滑川市立早月中学校 3</p> <p>一皿を通して</p>	<p>発表順</p>	
<p>概要</p>	<p>将来の夢は料理人になること。たった一皿が人と人との間をつなげるピースになる。料理は人の心に多くの影響を与えるのだ。そんな料理を僕はつくりたい。そのためにはやるべきこと・学ぶことがたくさんある。幅広い年代の人とコミュニケーションをとって、多くの人々の「心」を知る。人の「心」に寄り添う料理とは何か。心をつなぐきっかけに、僕のつくる料理がなれば良いと思う。</p>		
<p>よしこし ほたか</p> <p>吉越 帆高</p>	<p>富山市立芝園中学校 3</p> <p>一人の人間として</p>	<p>発表順</p>	
<p>概要</p>	<p>テーマパークの点字ブロックに「隠れキャラ」が配置されていることの危険性を伝えるニュースをきっかけに、施設が機能している場面を想像したり、他者への関心をもったりすることで、様々な人が過ごしやすい環境が広がるのではないかと考えた。自らの気付きをもとに、これからの社会を作っていく一員として、社会とどう関わっていきたいかを主張する。</p>		
<p>わせ あおば</p> <p>和世 青葉</p>	<p>小矢部市立津沢中学校 3</p> <p>自分を好きになること</p>	<p>発表順</p>	
<p>概要</p>	<p>マスク着用が義務ではなくなった今、人々は次第にマスクを外し始めている。一方で、マスク生活に慣れ過ぎてマスクを外せないという人も多い。顔をマスクで隠したままにいるということは、容姿を含め、自分の個性を完全に発揮できないままにいるということだ。制限が緩和された今、ほかの人の顔を窺って行動するのではなく、自分の思いや個性を大切に行動し、もっと自分を好きになろう。</p>		